

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2022-夏

No.99

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



平和のキャラバン（東）太陽 1985年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

昨年二〇二二年十月より、前任の真室佳武氏の後を引き継ぎ、東京都美術館館長を務めている高橋です。

前職は東京・丸の内三菱一号館美術館。二〇〇六年から二〇二〇年までの十四年を初代館長として過ごしました。開館準備室から二〇一〇年四月の開館を経て十年間に企画展三十本余りを手掛け、二〇二〇年に退職しました。それ以前の、一九八〇年から二〇〇六年までの二十六年間は国立西洋美術館に奉職していましたから、退職の時点でほぼ四十年を美術館で過ごした訳です。

この度、縁あってまた懐かしい上野の山に戻ってきましたが、もともと東京藝大の学生だったので、なんだか第二の故郷に戻ってきたような不思議な感覚にとらわれています。では本当の故郷はどこかという、生まれも育ちも東京なのですが、幼少の頃に何度か転居をし、それに伴って幼稚園や小学校も転校を繰り返したため、一つの地域と強固な繋がりがなく漠然としています。言ってみれば、中学、高校で通った杉並・中野や、実家があった府中・聖蹟桜ヶ丘付近、そして今現在暮らしている吉祥寺界隈といった東京西部が漠然とその対象なのでしょう。

そしてもしやすると、一九六五年から六六年まで、交換教授でパリ大学に赴いた大学教員の父と母に同行して過ごしたパリが、第三の故郷なのかもしれません。ちょうど前年の一九六四年・東京オリンピックの年に海外旅行が自由化になったばかりで、まだドル〓三六〇円の固定相場でした。「兼高かおる世界の旅」(一九五九〜一九九〇)や小田実「何でも見てやろう」(一九六一)に代表され

るように、海外渡航も次第にブームになりつつありましたが、それでもまだ実際の海外旅行は珍しい時代でした。

そんな中、父は片道四十日あまり、往復およそ八十日の船旅を選びました。アフリカ・ジブチに渡った十九世紀の詩人・ランボーに関心があったためです。そのおかげで、当時の子供としては大変稀な経験をしました。「フランス郵船」の定期船は、横浜から発して香港経由で建国間もないシンガポールへ向かう途中、マニラでは戦争の記憶から、日本人船客は危険覚悟でしか上陸できませんでした。またサイゴンへは、開始されたばかりの北爆の音を遠くに聞きながらメコン川を往復しました。途中、国を捨てる裕福な避難民と、船員相手の貧しい少女娼婦たちの対照的な姿は強烈でした。

そしてコロンボやボンベイ(現ムンバイ)を経てインド洋から紅海に入り、封切られたばかりの映画「アラビアのロレンス」を船内で見たあと、甲板で現前に広がるアラビア半島・シナイ半島の砂漠の実景に感動したことも思い出されます。でも何より、スエズ運河を船が通過する間に下船し、バスで訪れたカイロのエジプト博物館所蔵・ツタンカーメンの遺物の数々や、当時ユネスコが開始させていた、アスワン・ハイ・ダム建設に伴うアブ・シベル神殿の移設大工事には強いインパクトを与えられました。将来はこうした文化遺産に関わる国際的な仕事がしたいという希望は、この頃芽生えた気がします。

言わば、かつての「オリエンタリズム」や「ジャポニスム」のルートを逆に辿ったような旅でしたが、マルセイユに上陸したのち一年をパリで過

し、ヨーロッパ各地に旅する間に膨大な数の寺院や美術館・博物館を見ることができました。

まだ日本人学校がなく、フランス語を習いに通うのみで時間はたっぷりあるという、大変恵まれた(?)環境でした。週一日無料観覧日があったルーヴル美術館には毎週通い、古代から十九世紀までの展示作品をふんだんに目に焼き付けました。日本人はまだ少なく、ましてや子供なので監視さんたちにもすっかり顔を覚えられました。

他方で日本の文化が恋しくなると、かつて薩摩治郎八が「国際大都市」に建てた「日本館(メゾン・デュ・ジャポン)」の図書室に通い、日本美術全集を読みふけりました。そのためさほど訪れたこともなかった奈良・京都の社寺にもそれなりに詳しくなったのはご愛敬です……。

帰国後は一年間のプランクをすっ飛ばしてごく普通の区立中学校に編入させてもらい、さらに都立高校に進みましたが、美術オタクのような特殊な過去は殆ど封印しました(笑)。とは言え結局は藝大に進み、だんだんと現在の道に分け入ってきた次第です。私事に終始して恐縮ですが、今後とも何卒よろしく願います。



東京都美術館館長
高橋明也
(たかはし あきみ)

ハイマート・ロス 「故郷喪失者」の歩み

日本のユネスコ世界遺産3

もず ふるいち こふんぐん 百舌鳥・古市古墳群

(南西から見た百舌鳥古墳群)



ユネスコ世界遺産(文化遺産) シリーズ

写真提供・堺市

令和元年(二〇一九)に世界文化遺産として登録された百舌鳥・古市古墳群は大阪府堺市の百舌鳥古墳群(第十六代仁徳天皇陵と伝えられる大仙古墳や第十七代履中天皇陵と伝えられる上石津ミサンザイ古墳等)と同・羽曳野市、藤井寺市にまたがる古市古墳群(第十五代応神天皇陵と伝えられる誉田御廟山古墳等)の総称である。

中でも仁徳陵古墳は全長四八メートルもある大型前方後円墳で、これは中国西安市郊外にある「秦の始皇帝陵」とエジプトのギザの「クフ王のピラミッド」と並び世界三大陵墓のひとつと評されている。

古墳は多くの謎を秘めているが、四世紀後半から五世紀後半にかけて日本列島を支配し、統治した王権の証であることは確か。

一六〇〇年余の時を経て、その形態を今にとどめる土木技術力の高さ、築造に従事したあまたの労働力を養いえた農業生産力、どれをとっても驚異に値する。

世界遺産として世界が認めた古墳は、日本民族にとっても誇り高きタイムカプセルとも言える。いつの日か科学的にその実態が解明される日まで、私たちは大切に保護し、見つめてゆきたい。

国立西洋美術館のリニューアルオープン

都心の中のユネスコ世界遺産。
 原点回帰を果たした国立西洋美術館の
 これからを見る……！

原点にもどって……

国立西洋美術館は、二〇二〇年十月より一年半ほど休館しておりましたが、この四月にリニューアルオープンいたしました。休館の間、企画展示館の空調と防水の工事を進めてまいりました。前庭の真下、地下にあります企画展示館の展示室は、展覧会の会場として一九九四年から九八年にかけてつくられました。そ



本館2階の展示室にはオールドマスターの作品が並んでいます。写真提供：国立西洋美術館

れから二十年以上の歳月がたち、会場内の湿度を管理する設備の改修と、展示室の屋根の部分にあたる前庭の防水工事が必要となりました。どちらも海外の美術館な

どからお借りした作品を守るための大切な工事になります。工事にあたっては前庭を全面的に処置することになりましたので、この機会に前庭を開館当時の姿に近い状態に戻すことにもなりました。

一九九八年に企画展示館が開館した際、本館にも免震装置を設置して地震対策を強化するなど、国立西洋美術館は大規模な改修を行いました。以前は正門にどとはまったく異なる姿となりました。以前は正門にあった券売所を本館の一階に移し、チケットがなくても誰もが前庭には入れるようになり、前庭に置かれていたオーギュスト・ロダンの彫刻、『地獄の門』や『カレリーの市民』、『考える人』も設置場所を変え、さらには緑地を広げて植栽のなかに彫刻が展示されました。こうした改修は暑熱への対策などを考慮したためでしたが、それによって当初のデザインからは大きく逸脱することにもなっていました。

そのため、フランスの建築家ル・コルビュジエ（二八七―一九六五）の建築作品として国立西洋美術館が二〇一六年に世界文化遺産に登録された際、こうした前庭の改修によって当初はあった近代建築としての「顕著な普遍的価値が減じている」という指摘を受けることになりました。しかし、今回のリニューアル工事によって、再びオリジナルに近い状態の前庭をみなさまに体験していただけるようになりました。

ていますが、その一つに「建築的プロムナード」というのがあります。「プロムナード」はフランス語で「散策路」を意味します。ル・コルビュジエは、建築を人々が立ち止まっている場としてではなく、歩き、動き回る空間として構想していました。国立西洋美術館の前庭にもまた、来館者のみなさまがそこを歩いて本館の入り口へといたる空間として、いくつもの場面展開が潜んでいます。

ル・コルビュジエは、来館者のみなさまが、道路からどう国立西洋美術館の敷地にはいって、どういったルートで、どのようなアプローチで建物に向かってくるのかも考えながら、正門の位置などをデザインしています。今回復活させました西門から入るのが、もともと「正門」として構想されていたアプローチで、『地獄の門』を正面に見据えながら進んでいただき、その途中で右手に『考える人』を、そして左手に『カレリーの市民』を鑑賞することとなります。しばらく歩くとい壁にぶつかり、左手へとみなさまを誘います。そして、『カレリーの市民』をもう少し近くでご覧いただきな

新たな個性の創出へ

がら、本館の一階へと到着いたします。館内に進みますと、今度は内部空間の「散策路」を体験することとなります。建物内部の「散策路」は、中央にある「19世紀ホール」と呼ばれる吹き抜けの空間に始まり、スロープを上りつつ、建築内部の場面展開をお楽しみいただけます。二階にあがるルートを、階段ではなくスロープとしているのも、「散策路」としての歩きやすさを考慮したためになります。

今回のリニューアルでは、展示室内部の工事は行っておりません。そのため、これまでにも当館にいらしてくださった方々には、いったいどこが変わったのかと思われ方もいらっしゃるかもしれませんが、所蔵作品の展示では新たな試みをいくつか行っておりま

す。たとえば「コレクション・イン・フォーカス」という小コーナーを会場内いくつか設けています。これは当館の作品をさまざまな視点からじっくりと理解していただくために、関連する資料等とともに展示するものです。たとえばカルロ・ドルチの作品『悲しみの聖母』は、顔料の分析調査をもとに、どのような材料で聖母が描かれているかを、その顔料の資料とともに解説しています。聖母の衣服は、ウルトラ・マリン・ブルー（海を越えてきた青）の意」という青の顔料で描かれており、ヨーロッパ内では採掘できない、遠い海の方から輸入された高価な材料であるからこそ、神聖な存在を描くのに使われたということがよくお分かりいただけるかと思えます。

リニューアルオープンの記念展

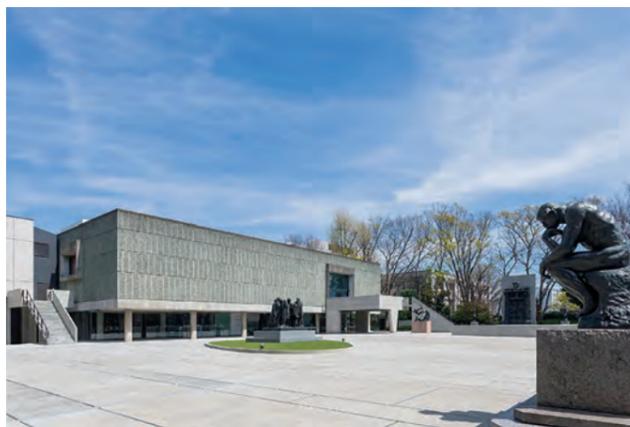


国立西洋美術館館長
 田中正之
 (たなか まさゆき)

撮影・稲口俊太

ル・コルビュジエのこころ

ル・コルビュジエは、「近代建築の五つの要点」や「ドミノ・システム」、そして「モデュロール」など、建築の造形をめぐる新しいあり方や概念をいくつも提唱し



国立西洋美術館 前庭(リニューアルオープン後)
 ル・コルビュジエ本来の設計をお楽しみいただけるよう、前庭を本館開館時の姿に可能な限り戻しました。
 写真提供：国立西洋美術館



リニューアルオープン記念展は9月11日(日)まで開催。

として、六月より「自然と人のダイアローグ フリドリヒ、モネ、ゴッホからリヒターまで」を開催いたします。これはドイツのエッセン市にあるフォルクヴァング美術館との共同プロジェクトで、両館の所蔵作品を合わせて、西洋における自然表現を紹介する展覧会になります。国立西洋美術館が昨年度購入した新作、フィンランドの国民的画家アクセリ・ガッレン・カッレラの風景画『ケイテレ湖』も展示いたします。新装となりました世界遺産の美術館で、みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

筆者略歴

一九六三年東京生まれ。専門は西洋近現代美術史。一九九〇年東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了後、ニューヨーク大学美術研究所で学ぶ。一九九六年より国立西洋美術館研究員、『マティス展』(二〇〇四年)、『ムンク展』(二〇〇七年)などを担当。二〇〇七年に武蔵野美術大学造形学部准教授、二〇〇九年に教授。二〇一一年より同大学美術館・図書館館長、造形研究センター長も務めた。主著に『近代の都市と芸術』、『ニューヨーク・錯乱する都市の夢と現実』(竹林舎、二〇一六年)、『現代アート10講』(武蔵野美術大学出版局、二〇一七年)、『西洋美術史』(美術出版社、二〇二一年)。

東京藝術大学COIが成し遂げたこと

「だれでもピアノ®」の研究開発

音楽とは文字通り音を楽しむもの。
だれもが音を奏でる喜びを知り、
音楽の中にある芸術性を体得できれば
どんなに素晴らしいことだろうか。
この課題に取り組んだ筆者たちは……。

夢多き壮大なプロジェクトの出発

東京藝術大学では、故・松下功副学長（一九五二～二〇一八）の提唱により、芸術を通してすべての人々が交流するイベント「藝大アーツスペシャル 障がいとアーツ」を二〇一一年に創始し、以来定期的に障がいのある方々の芸術活動を幅広く紹介する催しを実施してきました。またそれと並行して「障がいとアーツ研究」という授業を開講し、障がいの芸術表現に関する研究を行っています。授業では「障がいから学ぶ」ことをテーマに掲げ、視覚障がい者から「見る」ことを学び、聴覚障がい者から「聞く」ことを学ぶことにより、美術や音楽の本質に迫ることを目的としています。例えば、聴覚障がい者に、高い音・低い音の違いを説明するにはどうしたら良いのか。物理的な高低と、音の高低とは概念がまったく違います。また、柔らかい音・硬い音といった音色の違いを、「聴くこと」以外の方法でどう伝えたら良いのか。

学技術による共感覚イノベーション拠点。つまり「芸術と科学技術を融合させて、社会にイノベーションを起こす新しいイノベーターシップアーツを創せよ」という壮大なミッションが課せられることとなったのです。
産学連携、テクノロジ、イノベーション、パルクキャスト、社会実装……。聞きなれない用語の山に押しつぶされそうになりながら、何か研究開発の糸口が掴めないものかと、関東近郊の特別支援学校の門を次から次へと叩いて、見学とヒアリングを重ねていました。

ある出会い

二〇一五年初夏のある日、重度の肢体不自由のある児童生徒が通う特別支援学校を訪れた時のことです。教室のランドピアノに向かい、右手のひとさし指一本だけで、懸命にシヨパンのノクターン第二番を練習している一人の車椅子のつた女子高校生がいました。真っ赤に上気した顔を鍵盤すれすれに近づけ、自分で動かすことのできる唯一の指に全身の力をこめて、ノクターンのメロディを一音一音しぼりだすように奏でていたのです。

その横から音楽の先生が、左手の伴奏パートを弾きながら足を伸ばしてペダルを踏み、二人で折り重なるようにしてピアノを練習していました。彼女は、シヨパンが楽譜に書いた細かい装飾音までひとつ残らず弾きたいと、指一本で二年間もこの一曲だけを練習しているのだといいます。指の力が弱くても弾ける電子キーボードや、すぐ音の出る簡単な楽器には見向きもせず、自分独自の音を「表現」することのできる本物のピアノが弾きたい、という強い意思で練習を続けていました。
この光景を見た瞬間から、インクルーシブアーツ研究の新しい道が拓けていったのです。
彼女が一人でシヨパンのノクターンの演奏を完成するために、最先端の科学技術の力を活用でき

そうした問いかけこそが、「音・音楽とは何か」を深く考えるきっかけとなります。
また同授業を受講する藝大生とともに福祉施設や特別支援学校を訪問し、障がい者と親密に触れ合いながらオリジナルの舞台作品・美術作品を共同制作し、様々なイベントで発表しています。

そのような活動を続ける中、二〇一五年に東京藝大は、科学技術振興機構（JST）による産学連携プロジェクト「センサー・オブ・イノベーション（COI）」の拠点に認定されました（二〇二二年三月終了）。松下副学長と私は、「障がいとアーツ」



「だれでもピアノ」開発のきっかけとなった宇佐美希和さん



横浜音祭り2019での「だれでもピアノ」ワークショップ ©平鏡平

ないだろうか。そうしてインクルーシブアーツ研究グループとヤマハ株式会社との共同研究が始まりました。ヤマハには自動演奏ピアノの優れた技術があり、東京藝大の音楽的な専門知識とアーツ思考、障がい当事者の現場の声、これら三者の連携によって、研究開発が進められました。

夢の実現

人間の意思が肉体を動かし、指が鍵盤を押して、ハンマーが弦をたたき、ペダルが駆動して楽器から響きが導き出される。ピアノ演奏の仕組みを細部まで分析することにより、一本指の演奏でもなめらかなレガート奏法を可能にするペダル制御の技術と、人間が弾くメロディのタイミングやテンポに合わせて伴奏が自動追従する機能を持つ「だれでもピアノ」（特許6744522）が誕生したのです。



「だれでもピアノ」シニアのレッスンシリーズ

「だれでもピアノ」の発展形として藝大COI拠点「インクルーシブアーツ研究」グループを立ち上げ、私はその研究リーダーに就任することとなりました。藝大COI拠点のテーマは「感動を創造する芸術と科



東京藝術大学 客員教授 新井 鷗子 (あらい・おーこ) ©ヒダキトモコ

た楽器が、今では、ピアノ初心者や子供から高齢者まで誰もが楽しめるユニバーサルな楽器「だれでもピアノ」に発展し、全国各地で親しまれています。二〇二二年夏には、人工呼吸器をつけてベッドで寝たきりの少女が、コンサート会場にある「だれでもピアノ」をインターネットを通じてリモートで演奏する実験にも成功しました。
音楽は障がいや国境を越えて誰もが楽しめるもの、芸術はバリアフリー、といった紋切り型の表現がありますが、本当にそうでしょうか。音を感じる聴覚を持つこと、楽譜を読むこと、楽器が弾けること、音楽の奏でる場所への移動、人と人が音を合わせること等々、音が「音楽」として成り立つためには、実にたくさんのバリアがあります。
音楽を届けることは、まず一人の人間に寄り添うこと、たったひとつの「共感」から始まるのだと思います。一人の人の心をわずかでもふるわせることができたものが、初めて、多くの人々を感動させる音楽となる可能性を秘めているのではないのでしょうか。

筆者略歴

東京藝術大学楽理科および作曲科卒業。NHK教育番組の構成で国際エミー賞入選。「題名のない音楽会」「読響レミア」「東急シルベスターコンサート」等の番組やコンサートの構成を数多く手がける。東京藝大COI拠点インクルーシブアーツ研究プロジェクトリーダーを務めた。著書に「おはなしクラシック」（アルテスパブリッシング）、「音楽家ものがたり」（音楽之友社）等。現在、洗足学園音楽大学客員教授、東京大学先端アートデザイン分野アドバイザー、横浜みなとみらいホール館長等の要職も兼任する。

※日・中・韓文化交流フォーラムのテーマソング「わたしは未来」の作曲者。
※inclusive arts

発見から五〇年。「陶板」でよみがえる極彩色壁画

発見から半世紀の時を経て、
今、最新技術によって
新たな生命を得た「高松塚古墳壁画」は……。

日本最古の極彩色壁画



試作品の評価をする有賀祥隆東北大名誉教授

「世紀の大発見」と日本中に考古学ブームを巻き起こした高松塚古墳壁画の「飛鳥美人」が一九七二年に発見されてから五十年を迎えた。今年五月二十一日から壁画の一般公開が始まったが、例年に比べ多くの申し込みがあったようだ。また、大塚オーミ陶業では文化庁の国際交流事業として、奈良県から依頼され、発見当時の高松塚古墳壁画を復元製作する機会を得た。製作した陶板は、榎原考古学研究所付属博物館で公開されており、今後海外の博物館でも展示される予定だ。

弊社は、幅90cm×縦3mの大型陶板を精度よく仕上げることができ、さらに色の再現も多彩で、表面の光沢を再現し、目撃した壁画の表情に近づけることができた。さらに色の再現も多彩で、表面の光沢を再現し、目撃した壁画の表情に近づけることができた。



修理作業室内にて壁画表面状態の確認作業



加工機を活用し陶板を切削する

料などの違いによる発色具合も調整。陶板への加飾はシルクスクリーン印刷を用いて、壁画にわずかに残された痕跡も表現するよう努め、細部は技術者が加筆し焼成を繰り返した。表面にわずかに光沢を与えることで「ぬれ色」を表現し、目標とする壁画の表情に近づけた。

これらの作業は美術史や考古学、保存科学、絵画修復等の専門家による助言、監修を受けながら進めた。絵の具の経年変化、絵師の技量がかがえる線の引き方など、専門家の話に興味を尽きず、監修の場はさながら研究室の様相を見せた。

漆喰の表情を復元する

壁画の漆喰表面には経年の劣化による剥落や盗掘による損傷、また侵入した土砂や水などの痕跡が残り、まさに歴史が刻まれている。技術の発展により漆喰の凹凸データは非接触で計測できるようになった。榎原考古学研究所が最新鋭の機器を用いて修理作業室内で計測した3Dデータを入手し、さらに奈良文化財研究所(以下、奈文研)からは二〇〇六年に撮影した石室解体前のフォトマップデータの提供も受けた。

発見当時の漆喰の表情を復元するためには、発見時と比較して現状の壁画がどの程度変化しているのか検証が必要となる。最新の3Dデータと、発見当時の画像データを詳細に比較検討し、漆喰の状態に変化があ

沢具合も自在に変化させることが可能だ。これらの技術的蓄積は、大塚国際美術館(徳島県鳴門市)の作品など、数多くの陶板作品を製作する経験によって培われてきた。

古墳時代後半五世紀から六世紀に造られた装飾古墳では、石室や石棺などに規則的な幾何学模様を直接刻まれたりしているが、高松塚古墳では、石室の凝灰岩に漆喰が平らに硬く塗り込められ、その上に繊細な彩色壁画が描かれている。七世紀末から八世紀初めに描かれたとされており、日本に残る本格的な絵画で、キトラ古墳壁画、法隆寺金堂壁画と並び最も古いものである。描かれた男女の群像の装束や持ち物、壁の四神(残念ながら南壁の朱雀は盗掘時に壊されたようである)などからは、中国や朝鮮半島との強い結びつきや、律令制度が整いつつある様子をうかがい知る貴重な絵画である。



壁画模写を進める前田青邨先生と平山郁夫先生=1973年10月8日(朝日新聞社提供)

発見から六ヶ月ほど経過した一九七二年九月に始まった文化庁の総合調査のなかで壁画の模写を、総監修前田青邨先生、平山郁夫先生が中心となる五名の画家に委嘱された。僅

ると思われる部分を特定する作業を根気よく進めた。最終的には修理作業室において文化庁・奈良県担当者とともに確認し、カビなどの影響で発生した窪みや剥落が拡大している部分は、発見当時の状態に戻すよう3Dデータを補正。また、解体時に取り外した凝灰岩の目地部分は、奈文研のフォトマップデータを活用し補っている。

3Dデータ編集が終了した後は、陶板に凹凸加工を施すことになるが、細かな表現は手作業で加工するには難しく、その再現方法が課題であった。寸法精度よく安定して焼き上がる素材の開発と、細かな凹凸を表現するため切削加工機の導入を進めてきたことから、再現精度の誤差は原物と比較し1mm程度となり、高精度に計測され編集した3Dデータを陶板に反映することが可能になった。

近年の3D技術による非接触の計測や加工への応用



陶板で復元された西壁女子群像



大塚オーミ陶業株式会社
大杉 栄嗣
(おおすぎ・えいじく)

かな光の中に浮かび上がった飛鳥美人を平山先生は息をのむように見つめておられたであろう(完成した模写は奈良文化財研究所飛鳥資料館に保存されている)。

発見当時の「ぬれ色」を復元する

発見された壁画の保存対策は、各分野の専門家らにより多角的に検討されたが、現在の技術ではカビの発生など劣化が食い止められず、現地保存が難しいと判断され、二〇〇七年石室ごと解体された。

現在、壁画は明日香村にある国宝高松塚古墳壁画修理作業室において保管されている。

湿度を五五%程度に保っているため、漆喰は乾燥し、壁画の色は薄く感じられるが、発見当時の一〇〇%に近い湿度の石室内部では、壁画は鮮やかな「ぬれ色」で、見る者に大きな印象を与えた。これを復元するには、発見直後の石室内部を撮影した画像データが必要であったため、株式会社便利堂にポジフィルムのデータを提供いただいた。狭い石室内部として限られた照明と機材だが、巧みな記録写真である。

描かれた図像の色や漆喰の表情は、一九七二年に発行された「壁画古墳 高松塚調査中間報告書」(編著:榎原考古学研究所)を専門家の意見のもと参考資料とした。色調は色見本を幾通りも製作し、使用された顔

は、より忠実な複製品製作に欠かせない技術である。最新の技術を駆使しながら完成品へと近づいていく事になるが、最後はやはり人の感覚、感性が必要だ。微妙な色の濃淡やえぐれた断面などの表現は経験豊富な技術者が手を加えることでさらに完成度が高くなる。

多様な鑑賞体験の提供

やきものによる複製品は、その耐久性から多様な活用シーンを創出することができると考えている。表現の幅や精度をさらに向上させ、身近に活用できる複製物の普及を通して本物への興味と理解を促し、文化を守り、繋げる心を育むことに貢献したい。壁画を後世に伝えていくためにも、陶板でよみがえった極彩色の複製を活用し、より多くの人たちに壁画の魅力、発見時の興奮を感じ取ってもらいたいと願っている。

復元された陶板については、以下へお問い合わせください。

奈良県立榎原考古学研究所付属博物館

所在地: 奈良県榎原市畝傍町五〇一二

TEL: 〇七四四-二四一一八五

<http://www.kashikoken.jp/museum/info/info.html>

筆者略歴

大塚オーミ陶業株式会社 代表取締役社長。
一九七九年大塚オーミ陶業(株)入社、二〇二二年代表取締役社長に就任。近年では、高精細な文化財の複製などやきもの新しい可能性を追求している。
二〇一〇年キトラ古墳壁画の再現(文化庁)、
二〇一八年国宝火焰型土器の複製(十日町市)、
二〇二〇年法隆寺金堂壁画第一号壁(焼損後)、
二〇二一年静嘉堂文庫美術館所蔵の徳屋宗達筆の国宝源氏物語「関屋濡滞(関屋濡滞)屏風」のうち濡滞図の原寸大複製(住吉大社へ奉納)などの実績がある。

チェロのお話

今回はチェロについて、
極私的なエピソードを交えて
お話をしたいと思います……。

人生を決めた名曲「白鳥」

まずはサン＝サーンス作曲の「白鳥」のこと。
チェロの独奏曲として皆様が一番よくご存じの作品
と言えばこの曲ではないでしょうか？ 一八八六年に
作曲された組曲「動物の謝肉祭」全一四曲は、様々な
動物の生態をユーモラスに、そして少々
皮肉っぽく描いているのですが、その
中で「白鳥」一曲のみが純然と美しい音
楽として書かれました。湖の穏やかな
水面を表すようなピアノの伴奏に乗り、
静かに泳ぐ白鳥のようなチェロのメロ
ディ。その優雅な旋律線と、それに伴
う柔らかなハーモニーは、三分足らず
の短い曲にもかかわらず、私たちに深
く印象を残す音楽となっています。

まだチェロに出会う前の小学生の時
代、私は、音楽の授業で「白鳥」を知り、
たちまち大好きになりました。どうし
てももう一度聞きたくなり、なけなし
のお小遣いを握りしめ、人生で初めて
自分のお金でレコードを買いに行きま
した。二千元という値段は、今の物価



①ピエール・フルニエのレコードジャケット、「白鳥」を含む小品集



②ニコラ・リュポウ チェロの側板。「1822」の字が見えますか？



③ニコラ・リュポウ チェロの4面を撮ったポスター。
(©SAYAKA IKEMOTO)
今年はこの楽器の生誕200年です。



④ニコラ・リュポウ ヴァイオリンの側板。金文字がよく残っています。

一八世の治世下で弦楽器を作り続けた人
で、「フランスのストラディヴァリ」と言
われています。フランス人で初めてスト
ラディヴァリの楽器を研究し、そのスタ
イルを自らの作品に取り入れ、優れた楽
器を作ったからです。王からの注文で王
宮のオーケストラの弦楽器をすべて製作
したり、当時の音楽院の一等賞の賞
品として王から送られる楽器を作ったり
もしました。私が現在使っている楽器は、
その後者にあたります。王から送られた
楽器の側板にはその献辞が金文字で書か
れますが、この楽器は残念ながらどこか
の時点でその金文字が剥がされました。
理由は不明ですが、現在剥がされた跡が
一部薄く残っています。(写真②④)

からフランスの名器へのあこがれを持ち続けていたこ
とから、このリュポウが売りに出た情報を、知人のヴァ
イオリニストを通して運良く入手。ただ、購入を検討
中のドイツ人がいて、私の順番はその次とのことでした。
近所の神社にまで行って願をかけたのが効いたのか、
結局ドイツ人は諦め、いよいよ楽器と対面するべく
チューリッヒ行きの飛行機に乗りました。楽器は、
期待を上回る素晴らしいものだったので、すぐに代理
人と交渉。私が惚れ込んでいたのを見て、支払いも後
払いでよい、と信用して頂き、そのまま日本に持ち帰
ることができました。まさに「求めよ、さらば与えら
れん」という言葉そのものの経験でした。

名器の製作者

ここで、この楽器の製作者リュポウという人につい
て少しお話ししましょう。

彼は、フランス革命の激動期から王政復古のルイ

と比べてもかなり高価でしたが、それもあってか毎日
のように電蓄の前に正座して、大切にレコード盤に針
を置き、飽きもせずに聴いたものです。

高校生になり、部活でチェロを弾き始め、「白鳥」の
さわりだけでも弾けるようになると、またチェロのレ
コードが無性に欲しくなったのは自然なことでしょう。
ジャケットの、美しい白鳥とピエール・フルニエの演

年

の

奏する姿に惹かれて(写真①)、小品集のレコードを手
に入れ、気品ある「白鳥」の演奏にほれほれと聴き入っ
たことは、私の音楽の原点として今も克明に残ってい
ます。

ふり返ると私が演奏家になってからこれまで、一番
回数多く演奏してきたのは「白鳥」ではないかと思
います。さまざまな機会に演奏してきましたが、あると
き小学校でのこと、弾き終えてから子供たちに「この
曲知ってる？」と問いかけたところ、全員揃って「給食
のうた！」と答えたのにはびっくり。お昼の校内放送
でこの曲が流れていたのでしょうかね。

あこがれの名器

さて次に私の楽器のお話です。
私は現在、フランスのニコラ・リュポウ(一七五八
〜一八二四)制作によるチェロ(一八二二)を使用し
ています(写真③)。二〇〇二年に、縁あって私のもとに
この楽器が来ることになりました。楽器の入手には、
各人それぞれドラマティックなストーリーがつきもの
ですが、私の場合も例外ではありませんでした。
長らく私の師匠からお借りして使用していた楽器
(ヴィヨーム)を返さねばならなくなり、いよいよ自分
の楽器の購入が迫られた事がきっかけです。私が以前

終わりに

過去の所有者たちが時代を超えて大切に扱ってきた
と思われるリュポウのチェロ。さまざまな経緯のち
縁あって私が現在所有していますが、彼らに思いを馳
せるとき、益々この楽器への愛着は深まります。私も
所有者の一員に名を連ねたわけですから、責任をもつ
てこの楽器のコンディションを保ち、この楽器の艶の
ある、緻密な美しい音で演奏を重ね、さらに次のオー
ナーへ受け渡す使命を果たしたいと思っています。

この文章の冒頭にご紹介しました「白鳥」の、優雅
で美しく、しかも深い演奏も、この楽器・リュポウが
大いに助けてくれるに違いありません。

筆者略歴

京都市立芸術大学卒業。ロスアンゼルス及び
ウィーン国立音楽大学にて研鑽。黒沼俊夫、G・
ライト、A・ナヴァラの各氏に師事。
一九八四年帰国後は独奏者として、またアンサン
ブル・オフ・トウキョウ、紀尾井ホール室内管弦楽団、
岡山楽四重奏団、AOI(静岡音楽館)レジデ
ンス・クワルテットなどのメンバーとして、室内
楽の分野でも、国内外に幅広く精力的な演奏活動
を行ってきた。
一九八一年第50回日本音楽コンクールチェロ部門
第1位。二〇一七年京都市文化功労者。



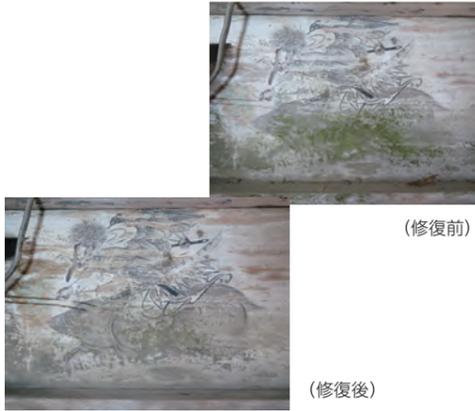
東京藝術大学音楽学部教授
同・演奏芸術センター長
河野 文昭
(こうの・ふみあき)

文化財保存修復助成事業

国内文化財の保存修復助成事業として、32都府県教育委員会から推薦のあった62件の中から、33件について助成を行いました。
【No.③、⑦】の事業については、助成決定後辞退の申し出がありました。】
(敬称略・以下同)

(美術工芸)

- ① 岩手県・曹源寺
大般若経典保存修復事業
- ② 福島県・永山祐三
旧清水山行法寺大日如来像厨子修理事業
- ③ 東京都・安養寺
木像釈迦如来坐像(薬師堂安置)修理事業
- ④ 神奈川県・弘濟寺
木造地藏菩薩坐像修理事業
- ⑤ 長野県・安布知神社
安布知神社本殿及び拝殿絵画修復事業



- ⑥ 福井県・宮留観音講
木造阿弥陀如来坐像他4像修理事業

に対する助成事業として申請のあった17件の中から、8件の事業に助成を行いました。
(研究・事業)

- ① 宝生流能楽公演「七葉會」[蟬丸]
(公益社団法人宝生会能楽師 高橋憲正)
- ② 「藝大コレクション」展2021 第1期
雅楽特集を中心に(東京藝術大学 大
学美術館 教授 黒川廣子)
- ③ 建築学生ワークショップ 明治神宮
2021
(特定非営利活動法人アートアンドアー
キテクトフエスタ 代表理事 平沼孝啓)
- ④ 国宝「信貴山縁起絵巻」現状模写研究
(東京藝術大学 美術学部 教授 吉村誠司)
- ⑤ 山田流箏曲の楽譜の出版(東京藝術大学
音楽学部 教授 萩岡松韻)
- ⑥ オークストラ・プロジェクト2021
(熊本大学 大学院 教授 国枝春恵)
- ⑦ みろくー終わりの彼方 弥勒の世界―
特任教授 井上隆史
(東京藝術大学 社会連携センター)
- ⑧ 和楽の美々古の花(東京藝術大学 音楽
学部 准教授 露木雅弥)

国際協力事業

文化財の保護及び芸術文化に関する国際的な協力・交流、人材養成事業など申請のあった2件の事業の中から、1件の事業に対して助成を行いました。

- ① トルコ共和国古代遺跡出土遺物、遺構の保存、修復と若手専門家の養成(公財)中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所 所長 大村幸弘)

重点助成事業

(1) 昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業
大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、明治時代の西欧化、社会変化、殖産興業などを表象する大礼服であり、現存する最古の昭憲皇太后所用の第一礼装で

- ⑦ 京都府・向日神社
社額「正二位向日大明神」修理事業



- ⑧ 三重県・殿村自治会
木造阿弥陀如来坐像修理事業
- ⑨ 福岡県・永照寺
永照寺「輪蔵」他保存修理事業



- ⑩ 熊本県・楽行寺
絹本着色祖板仏修理事業



す。貴重な歴史資料であり、近代日本の象徴的遺産として文化的価値が高いものになります。
経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分(スカート)の復元のため、令和元年度から令和5年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施します。

令和3年度は5年計画の3年目であり、次の助成を行いました。
① 昭憲皇太后大礼服研究修復元プロジェクト実行委員会

- 昭憲皇太后大礼服研究修復元支援事業
・トレン本格修理(金属刺繍の錆除去)



- (2) サールナート(インド)野生司香雪の伝壁面保全支援事業

日本画家・野生司香雪は、昭和7年から11年、5年をかけて聖地サールナート(鹿野苑)の初転法輪寺で伝壁面画を完成させました。その伝壁面画は、今では我が国在外の近代芸術の文化財であり、また日本・インドのみならず世界の人々と

- ⑪ 熊本県・湯前町下里区
木造弘法大師坐像修理事業
(建造物)

- ⑫ 青森県・八幡神社
八幡神社社殿修繕事業
- ⑬ 宮城県・祇劫寺
祇劫寺本堂修復事業
- ⑭ 山形県・鳥海月山両所宮
鳥海月山両所宮随神門保存修理事業
- ⑮ 茨城県・逢善寺
逢善寺書院・庫裡屋根葺替等保存修理事業
- ⑯ 群馬県・長楽寺
長楽寺勅使門保存修理事業
- ⑰ 埼玉県・堀兼神社
堀兼神社隨身門修理事業
- ⑱ 千葉県・神野寺
「神野寺本堂」保存整備事業
- ⑳ 山梨県・長徳院
長徳院本堂修理事業
- ㉑ 新潟県・熊野神社
佐渡熊野神社能舞台修繕事業
- ㉒ 静岡県・秋葉山本宮秋葉神社
秋葉神社神門建造物保存修理事業
- ㉓ 岐阜県・洲原神社
洲原神社本殿修理事業



- ㉔ 滋賀県・念称寺
念称寺本堂防災施設等事業(耐震補強工事)

の日本芸術を介した文化交流の大切な記念碑となっています。
日本画の大壁画は制作から80有余年が経ち、経年劣化が進み剥落が激しく保全措置が必要となり、令和元年度から令和4年度まで募金を行い、伝壁面画の剥落止め、古写真のデジタル化、壁画デジタル撮影等の保全事業を実施します。

令和3年度は、コロナ禍により壁画保全作業は令和2年度に引き続き中止しました。
令和3年7月16日から23日までインド大使館と共催で、大使館VCC講堂及び展示室において「聖地サールナートの伝



展覧会の様子



講演会の様子

- ②4 大阪府・男神社
男神社本殿 附 末社若宮神社本殿修理事業

- ②5 兵庫県・斑鳩寺
斑鳩寺庫裏修理事業
- ②6 岡山県・妙本寺
妙本寺本堂保存修理事業
- ②7 鳥取県・高田嘉昌
高田酒造(高田家住宅及び醸造施設)修理事業
- ②8 島根県・覚皇山 永明寺
永明寺保存修理事業
- ②9 長崎県・大念寺
大念寺鐘楼山門整備事業
- ③0 宮崎県・日高 久
日高家住宅修理事業
- ③1 鹿児島県・勝栗神社
勝栗神社本殿修復事業

- ③2 富山県・八尾町 今町曳山保存会
八尾町祭礼曳山保存修理事業
(有形民俗)
- ③3 高知県・萬福寺
貞享元年銘法華経塔修理事業
(その他)



芸術研究等助成事業

文化財の保存修復及び芸術に関する調査研究、成果の発表、国際交流事業の実施等

伝壁画と野生司香雪「講演会」と展覧会を開催しました。
(3) 尼門跡寺院文化財保存修復支援事業
尼門跡寺院の文化財保存修復事業は、故平山郁夫元理事長が上皇后から依頼を受けて実施しているものであり、平成12年度から開始され平成29年度までに29件の文化財を修復しています。

今回の事業は、中世日本研究所(京都)、中世日本研究財団(ニューヨーク)が中心となり、日本だけでなく世界から寄付を募り実施します。
令和3年度は4年計画の2年目であり、次の助成を行いました。

- ① 中世日本研究所、真如寺(京都)
真如寺蔵無外如大禅尼像他研究修復出版プロジェクト
・無外如大尼坐像、由来額、仏具など
公益財団法人 美術院修理所にて
修復の継続



無外如大像修復完成全図



(4) その他(東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業)

例年実施の文化財保存修復助成申請の中には東日本大震災被災文化財の保存修復事業の案件が未だに含まれており、東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業の募金及び残予算もあることから、次のとおり助成を行いました。

(美術工芸)

①岩手県・陸前高田市長

被災絵図資料安定化処理及び修理事業

(建造物)

②岩手県・小山 士

鶴住居観音堂復旧事業

(5) その他(熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業)

例年実施の文化財保存修復助成申請の中には熊本地震被災文化財の保存修復事業の案件が未だに含まれており、熊本地震被災文化財復旧支援事業の募金及び残予算もあることから、次のとおり助成を行いました。

(美術工芸)

①熊本県・熊本地震田中憲一の画を救う会

田中憲一被災作品《骸B》及び《海の部分B》保存修復事業

(建造物)

②熊本県・正教寺

正教寺本堂と庫裡の渡り廊下修理事業

■シンポジウム等の開催事業、その他普及広報活動

文化財の保護及び芸術振興に関する啓蒙活動、国際交流、広報活動として広報誌の発行、文化交流フォーラムの開催、その他普及広報活動に関連し次の事業を行いました。

①広報誌「絲綢之路」の発行

第96号(二〇二一夏)

令和3年6月25日発行

第97号(二〇二一秋)

令和3年10月25日発行

壁画保全支援事業に対する寄付

圓福寺

お願い

◎賛助会員ご入会並びにご寄付のお願い

〔賛助会員〕

当財団では、財団の活動趣旨にご理解ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員 年額(1口) 50万円

個人正会員 年額(1口) 1万円

維持会員 年額(1口) 10万円

〔ご寄付〕

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介いたします。詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。(電話:〇三・五六八五・二三一一)

(1)銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

(銀行振込)

〇三井住友銀行 上野支店
普通 6615500

〇みずほ銀行 上野支店
普通 4478576

〇三菱UFJ銀行 上野中央支店
普通 0796384

(郵便振替)

〇口座名義は、銀行、郵便局、いずれも(公財)文化財保護・芸術研究助成財団

※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。

(2)インターネットによるご寄付

次の手順によりインターネットから、ク

第98号(二〇二一 新春)

令和4年1月25日発行

発行部数:各2、000部

配布先:都道府県教育委員会、美術館・博物館、文化財研究機関、芸術系大学、新聞社、支援者、賛助会員、理事・評議員、その他関係者に配布

②日中韓文化交流フォーラムの開催

【コロナ禍により開催中止・再度1年延期】

③「第25回妙高夏の芸術学校」の共催

【コロナ禍により開催中止】

④第71回社会を明るくする運動「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」に協力

主催:社会を明るくする運動・中央推進委員会他

⑤講演会・シンポジウム・展示会等の後援

(ア)インド独立75周年及び印日国交樹立70周年記念事業「聖地サールナートの仏伝壁画と野生司香雪」の講演会と展示会を後援

会場:インド大使館VCC講堂及びギャラリ

主催:野生司香雪画伯顕彰会

共催:インド大使館

(イ)インド独立75周年・日印国交樹立70周年記念「ブッタと白隠禅師展」を後援

会場:インド大使館

主催:ブッタと白隠禅師展実行委員会

共催:インド大使館・白隠宗大本山松蔭寺・日印文化交流ネットワーク

後援:(公財)永青文庫、(公財)日印協会

(ウ)震災復興支援文化財救済活動チャリティ企画「文化人・芸能人の多才な美術展」2021(Entertainment Art Exhibition)「拡げよう文化の輪・芸術は地球を救う!展」を後援

会場:品川区O美術館

主催:特定非営利活動法人「日本国際文化遺産協会」同実行委員会

後援:(公財)文化財建造物保存協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟

(エ)令和3年度文化財保存修復を目指す人のための実践コースを後援

主催:特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

共催:独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館

後援:川崎市・川崎市市民ミュージアム、(公社)日本博物館協会他

(オ)「第8回アール・パレ展(愛知)」を後援

会場:安城市埋蔵文化財センター 安城市民ギャラリー

主催:アール・パレ実行委員会

後援:ICOM(国際博物館会議)日本委員会、東北歴史博物館他

(カ)第15回「文化財保存・修復」読売あをによし賞」を後援

主催:読売新聞社

後援:文化庁、大阪府教育委員会、独立行政法人国立文化財機構他

令和3年度ご支援いただきましたました賛助会員の皆様

法人正会員(十四社) [五十音順]

朝日生命保険相互会社

株式会社 NKB

花王株式会社

鹿島建設株式会社

株式会社 講談社

株式会社 集英社

全日本空輸株式会社

株式会社 高島屋

株式会社 電通グループ

株式会社 東京ドーム

野村ホールディングス株式会社

三井住友海上火災保険株式会社

株式会社 三井住友銀行

株式会社 ミロク情報サービス

大塚ホールディングス株式会社

洲本観光株式会社

所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせ下さい。

☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。

お知らせ

◎理事長CDプレゼント

澤和樹理事長が就任したことを記念して、新規に賛助会員に入会された方、及び三万円以上ご寄付を頂いた方に澤和樹のCDをプレゼントします。

この機会に賛助会員ご入会、ご寄付をおまちしております。

今号の表紙

平山郁夫 平和のキャラバン(東)太陽 1985年



平和のキャラバン(東)太陽 1985年

一九八五年に「科学万博つくば85」が開かれた。平山画伯は国連と関連諸機関からの依頼を受けて国連平和館に「平和のキャラバン(西)月」との対で、この作品を制作・出品した。国連平和館のテーマは「開発による

賛助会員ご入会とご寄付を頂きました皆様

令和4年1月1日から 5月31日まで 敬称略/順不同

☆賛助会員

○法人(正)会員

花王株式会社

東日本遊技機商業協同組合

○個人(正)会員

☆寄付金

○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付

ヤフーネット募金(170名様)

故・細川暢子様遺贈金

(特非)日本国際文化遺産協会

共同印刷株式会社

○尼門跡寺院文化財保存修復助成事業に対する寄付

中世日本研究所

○サールナート(インド)野生司香雪の伝

平和——行動する国連——であった。ベールをまとった女性だけのキャラバンは東から西へ、西から東へと歩みよる形で飾られた。広島での被爆体験をもつ画伯は、女性のもつやさしさを通じて、東西の世界が平和を築くことを訴えたのである。終生、世界平和を願っていた画伯は、今日の危機に満ちた状況をどんな思いで天上からながめておられることだろうか……。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行とロシアによるウクライナ侵攻によって世界は不安と恐怖に支配されてしまった……と申しあげるのはいきりすぎでしょうか。二一世紀は希望に満ちた時代になると期待したのも束の間、ニューヨークで起きた9・11のテロ事件は時代を大きく後退させてしまいました。コロナにしろ、戦争にしろ、テロにしろ共通するのは多くの無辜の人々の尊い生命が失われてゆくことです。生命の宿る惑星地球の住人として人類はその尊さを謙虚に見つめ直すべき時ではないでしょうか。

私たちの事務局のある上野公園は若葉の季節から夏木立へと移りつつあります。木々の緑は安心・安全の色です。緑風は心に安らぎをもたらします。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード) 二〇二二年 夏号 通巻第九十九号

★令和四年六月二十五日発行

★編集発行/公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局

〒110-0007 東京都台東区上野公園十二一五

電話(〇三)五六八五一一三一一

FAX(〇三)五六八五一一三二二五

URL:https://www.bunkazai.or.jp/

E-mail:jimukyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 篠田印刷株式会社

15 ● 絲綢之路 2022年-夏